

野生植物研究所だより

『自然探検倶楽部』 潟沼での観察会

前号でお知らせしました、古川市中央公民館主催の『自然探検倶楽部』第2回目の自然観察会は、さる6月25日(土)、鳴子町、鳴子温泉の南側に位置する「潟沼」で行われました。当日8時30分、親子65名が2台のマイクロバスに分乗し、古川市中央公民館を出発しました。天候にも恵まれ、思いがけない様々な出会いがあり、楽しい観察会となりました。

【潟沼の紹介】

潟沼は旧鳴子火山群に属する火口湖で、PHが1.6前後の世界的な強酸性の湖、強酸性湖として有名な湖です。標高は湖面で約306mあり、楕円形の形をしています。湖の幅の一番広い所で約450m、一番狭い所で約350mあります。

周囲を囲む山は標高が400m前後で、最高峰は標高461mの胡桃ヶ岳があります。潟沼の湖岸にはガス体を噴出する硫気孔があり、硫気孔荒原となっており、この地特有な硫気孔荒原植物群落などが観察されます。

潟沼は強酸性湖なので魚などは住んでおりません。沼に生息する唯一の昆虫としてはセスジユスリカが有名です。セスジユスリカの幼虫は湖岸近くの水中の石に沢山営巣しており、湖水中に浮遊しているものも沢山見られます。また、その成虫が湖岸で沢山群れて飛ぶのが見られます。

【潟沼での植物観察】



ヤマタヌキラン

潟沼の周囲には歩道があり、湖の周りを一周できるように整備されています。今回は、この潟沼を一周しながら自然観察を行いました。日当たりのよい遊歩道沿いに硫気孔荒原植物の一つであるカヤツリグサ科のヤマタヌキランが沢山見られ、イオウゴケやウマスギゴケなども見られました。

遊歩道の両脇がコナラやカエデの仲間などに被われているところでの観察は、樹木の観察が中心となりました。マンサクやサラサドウタン、タカノツメやコシアブラ、オオバクロモジ、ヤマウルシなどいろいろな種類の樹木が出てきます。中でもその場所にはカエデ科の種類が多く見られますので、特にカエデの仲間の葉のつき方、見分け方などについて詳しく説明をしました。そこで見られたカエデはヤマモミジ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、アカイタヤ、ヒトツバカエデでした。

【徳利蜂（トックリバチ）との出会い】

子供たちが蜂の巣をみつけたということで知らせにきました。行ってみると休憩所の屋根の裏側の真中の所に直径10cm以上はあるかと思われる徳利蜂（トックリバチ）の巣がありました。しばらく眺めていると、トックリを逆さにしたような形の巣の下に向いているトックリの口



トックリバチの巣



トックリバチと巣

の穴からトックリバチが出てきました。その大きさはキイロスズメバチぐらいの大きさでした。このトックリバチも初めて見たもので、その大きさに驚きながらもさっそく写真におさめました。



ヤマグワのくわご

【ヤマグワの実、自然の味を楽しむ】

トックリバチに別れを告げ、植物観察を続けました。ガマズミの花を観察したり、カスミザクラやヤマグワの実を食べたりして、観察を終わりました。早めの昼食をとり、帰りは「あら伊達な道の駅」に寄り買い物をして、帰途につきました。

今回の鳴子町潟沼での観察会は、親にとっても、子どもにとっても素晴らしい体験、思い出の機会になったことと思います。

次回8月6日(土)の自然探検倶楽部は、江古川で魚の観察を行います。真夏の太陽の下、親子いっしょに自然を満喫し、夏休みの楽しい思い出づくりになればと、願っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。